



まもろう
札幌の
仲間たち。

札幌市版レッドリスト2016
ガイドブックも配布中
なんだっコー



札幌市の生物多様性PRキャラクター
カッコー先生

〈発行・お問い合わせ先〉

札幌市環境局環境都市推進部
環境管理担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
TEL.011-211-2879 FAX.011-218-5108



かけがえのない 生き物を守るために

今、地球上では、たくさんの生き物が絶滅の危機にあります。

絶滅の危機にある生き物を守るためには、

どんな生き物がどうして絶滅しそうなのかを知ることが大切です。

そのため、世界で、日本で、北海道で、

そして札幌で、レッドリストが作られています。

絶滅の意味

ある生き物が地球上から消えてしまうことを「絶滅」といいます。大昔に恐竜が絶滅したことはよく知られていますが、実は、今もたくさんの生き物が絶滅したり、絶滅の危機にあります。日本では、これまでにオオカミやカワウソなどが絶滅してしまいました。

レッドリストの意味

「レッドリスト」とは、すでに絶滅したり、近いうちに絶滅しそうなる野生の生き物について、調べてまとめた生き物のリストです。生き物を守るためのいろいろな取組に役立てられています。世界で初めて作られた「国際自然保護連合」(IUCN)のレッドリストが、危険を表す“赤色”「レッド」だったことから、レッドリストと呼ばれています。なお、レッドリストにのっている生き物について、絶滅の原因などくわしい情報が書かれた本を「レッドデータブック」といいます。

イヌ科
オオカミ (札幌：今見られない)
家畜を襲うために駆除されたり、
狂犬病が流行したことで
絶滅しました。

イタチ科
カワウソ (札幌：今見られない)
毛皮目的で大量に捕られたり、
河川環境が悪化したことで
絶滅しました。

今、これまでにないスピードで 生き物の絶滅が進んでいます。

長い進化の歴史の中で、恐竜が絶滅したように生き物の絶滅は、これまでも自然に起きてきました。ところが、今、地球上では、自然の速度の1,000倍という、これまでにないスピードで生き物の絶滅が進んでいます。

そして、この絶滅スピードは、今後さらに速くなるといわれています。

実は、スピードを速めている原因のほとんどは、わたしたち人間にあるのです。

モズ科
アカモズ
(札幌：絶滅危惧IB類)
開発により繁殖に必要な
草原が減っています。



タカ科
チュウビ(札幌：絶滅危惧IB類)
開発により繁殖地である
湿地や草原が減っています。



ガマ科
ヒメガマ
(札幌：準絶滅危惧)
生育地である湿地が
減っています。

絶滅の原因

開発

工場や住宅、道路などを作るために、生き物のすみかが壊されたり、なくなったりしています。

管理不足

管理されていない森林や農地が荒れて、そこに暮らす生き物が減っています。

外来種

もともとその地域にいなかったのに、人間が他の場所から持ち込んだ「外来種」の中には、もともといた生き物を食べたり、すみかをうばったりするものがあります。

乱獲

食べ物や毛皮、ペットなどの目的で大量に捕りすぎることによって、数が少なくなっています。

環境汚染

川や海などが汚れて、生き物の生息・生育環境が悪化しています。

地球環境の変化

地球温暖化で気温が高くなるなど環境が変化すると、それに対応できない生き物は絶滅してしまう可能性があります。

生き物を守ることは、 地球の自然やわたしたち人間を守ることでもあります。

地球上には、3,000万種ともいわれるたくさんの種類の生き物があります。
そして、その生き物一つひとつが、他の生き物と複雑につながり合っている
ことで、豊かな森や川、海などの自然環境が保たれています。

このため、ある生き物が絶滅すると、その生き物とつながりのある別の生き物
に影響を与え、自然環境のバランスをくずしてしまうことになります。

このまま、生き物たちの絶滅が進むと、わたしたち人間も生きていけなくなる
日がくるかもしれません。自然を守るためには、一つひとつの生き物を絶滅
から守っていくことが大切なのです。



サンショウウオ科
エゾサンショウウオ (札幌：準絶滅危惧)
開発により生息地や繁殖地が減っています。
外来種のアライグマによる被害も確認されています。

ゲンゴロウ科
ゲンゴロウ
(札幌：絶滅危惧IB類)
開発や水質汚染により
数が減っています。

ドジョウ科
エゾホトケドジョウ
(札幌：準絶滅危惧)
河川改修や湿地の開発により
生息地が孤立したり、
減ったりしています。

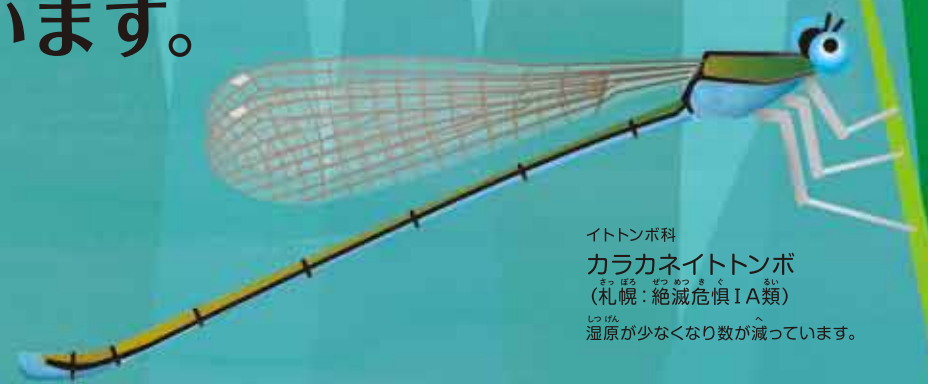
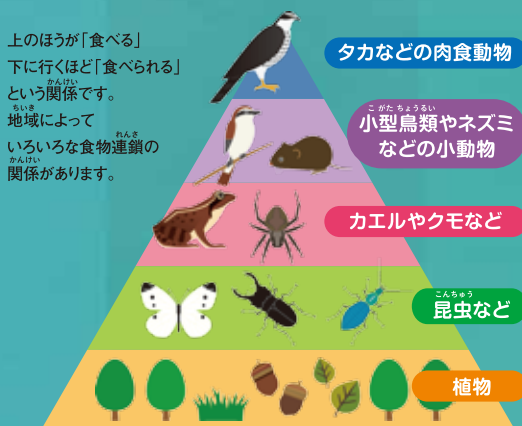
地球上の生き物は、 いろいろなカタチでつながって います。 人間もそのつながりの中で 生きています。

食べる一食べられる、助け合うなど、生き物どうしのつながりはさまざまです。わたしたち人間も、もちろんその生き物どうしのつながりの中で生きています。ミツバチやマルハナバチは、花粉や蜜をもらう代わりに植物の受粉を助け、わたしたちは受粉によってできた野菜や果物を食べ物として利用しています。食べ物だけではなく、空気や水、木材、薬など、生き物どうしのつながりから、たくさんの自然のめぐみももらって、わたしたちの暮らしは成り立っています。

食べる一食べられる というつながり。

植物は、葉や実を昆虫に食べられます。その昆虫はカエルやクモに食べられます。動物のふんや死んだ生き物は土の中の微生物の食べ物になり、さいごには栄養として植物を育てます。

〈例えば、タカなどを頂点にした食物連鎖〉



イトトンボ科
カラカネイトトンボ
(札幌：絶滅危惧IA類)
湿原が少なくなり数が減っています。

助け合うというつながり。

アブラムシは植物から汁を吸い、おしりから甘い蜜を出します。アリはその蜜をもらう代わりに、天敵のテントウムシからアブラムシを守ります。



生物多様性

地球上にたくさんの種類の生き物がいて、その生き物たちがお互いにつながり合っていることを表すのが「生物多様性」という言葉です。札幌市では、2013年3月に「生物多様性さっぽろビジョン」という計画を作り、生物多様性を守るために取り組んでいます。

札幌市の鳥は
わたくしカッコウ
なんだッコー



札幌市の生物多様性
PRキャラクター
カッコウ先生

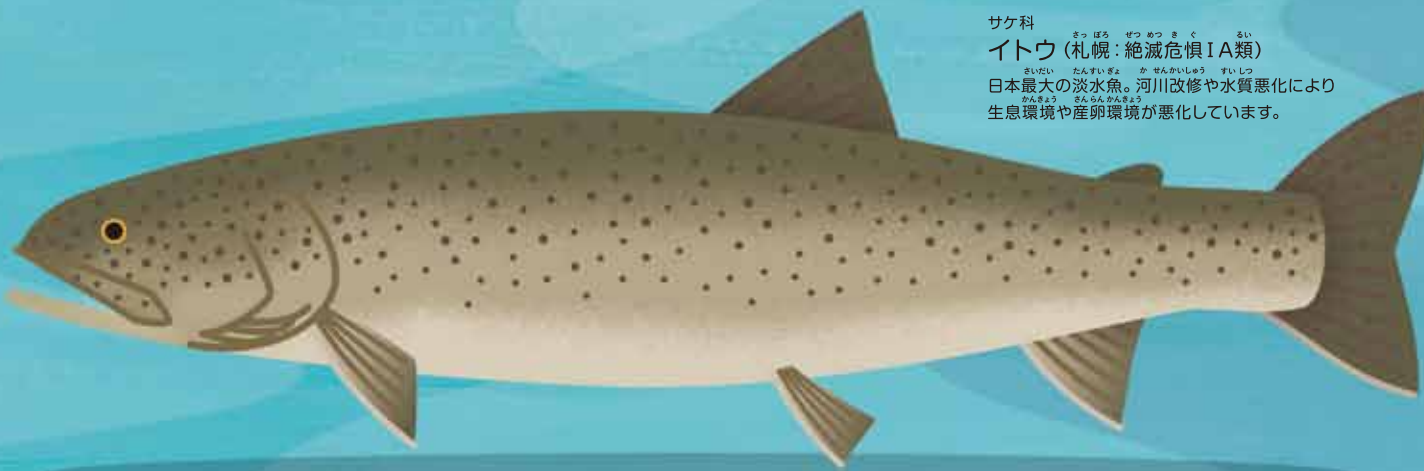
日本には、近いうちに 絶滅するかもしれない生き物が 3,596種います。

2015年に環境省がまとめた日本のレッドリストでは、3,596種の生き物が「絶滅危惧種」となっています。日本にいるほ乳類は5種に1種が、鳥類は7種に1種が、両生類や虫類では3種に1種が、絶滅しそうな状況にあります。

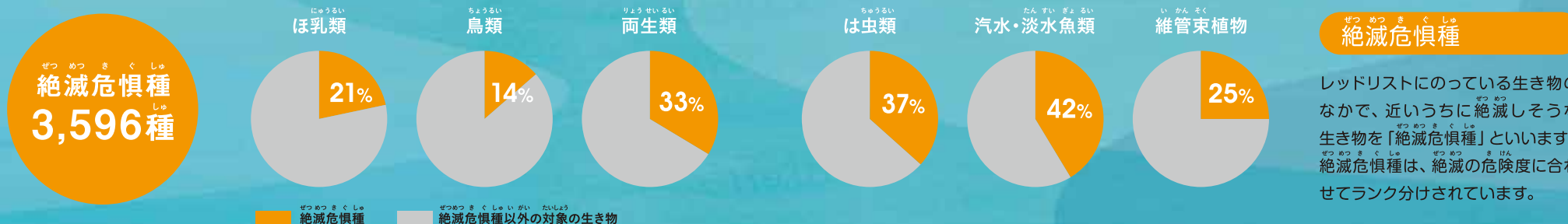
カワシジギガイ科
カワシジギガイ
(札幌：絶滅危惧Ⅱ類)
河川改修で生息環境が悪化したり、
幼生の宿主であるヤマメが
減っています。



サケ科
イトウ (札幌：絶滅危惧ⅠA類)
日本最大の淡水魚。河川改修や水質悪化により
生息環境や産卵環境が悪化しています。



〈絶滅危惧種の割合〉



絶滅危惧種

レッドリストにのっている生き物のなかで、近いうちに絶滅しそうな生き物を「絶滅危惧種」といいます。絶滅危惧種は、絶滅の危険度に合わせランク分けされています。

札幌にも、 絶滅しそうな生き物がいます。

札幌市は、190万人が暮らす大都市ですが、まちなかにはサケがのぼる豊平川が流れ、南西部には自然豊かな山地が広がっています。そんな札幌のレッドリストには、297種の生き物がのっています。ときどき出没して問題になるヒグマも、実はレッドリストにのっている生き物のひとつ。わたしたちは、絶滅しそうな生き物をどうしたら守ることができるか、野生の生き物とどうしたら共に生きていけるかを考えなくてはなりません。

札幌市版レッドリスト2016の
ランクと種数

今見られない	12種
絶滅危惧ⅠA類	15種
絶滅危惧ⅠB類	29種
絶滅危惧Ⅱ類	77種
準絶滅危惧	122種
情報不足	22種
留意	20種
合計	297種

絶滅危惧種



クマ科
ヒグマ (札幌：準絶滅危惧)
日本最大の陸上のほ乳類。
開発により生息地の孤立化が進んでいます。

キク科
エゾタンポポ
(札幌：絶滅危惧ⅠB類)
開発により草地の減少とともに
数が減っています。

今は札幌では見られなくなった生き物

●今見られない 昔はいたけれど、今は札幌では見ることができなくなった生き物。

ほ乳類	鳥類	昆虫類	植物
オオカミ (亜種エゾオオカミ) カワウソ (ニホンカワウソ北海道亜種)	タンチョウ シマフクロウ	ミヤマカワトンボ ナゴヤサナエ オオシオカラトンボ テングチョウ北海道亜種 ゴマダラチョウ	タイツリオウギ モメンツル タニマスミレ



ツル科
タンチョウ
(札幌：今見られない)
開発により生息地の湿原が
減ってしまい、今は札幌では
見ることができません。



フクロウ科
シマフクロウ
(札幌：今見られない)
子育てに必要な大木やエ
サとなる魚のとれる川が
減り、札幌では見られなく
なりました。

このままじゃ危ない! 絶滅しそうな札幌の生き物

● 絶滅危惧

今のままでは近いうちに絶滅してしまうかもしれない生き物。絶滅の危険度に合わせて3つのランクがあります。

	ほ乳類	鳥類	淡水魚類・水生動物
高	絶滅危惧IA類 クロテン	シマアオジ	イトウ
	絶滅危惧IB類	チュウヒ クマタカ アカモズ	カワヤツメ コガタカワシンジュガイ
低	絶滅危惧II類 ヤマコウモリ シマリス (亜種チョウセンシマリスを除く) オコシヨ	ウズラ ヒシクイ オジロワシ オオワシ クマガラ ハヤブサ	オショロコマ カワシンジュガイ ニホンザリガニ

	昆虫類	植物	
高	絶滅危惧IA類 カラカネイトトンボ マイコアカネ ヒメアカネ ダイコクコガネ	イブリハナワラビ エゾルリムラサキ キタダケテンダ フォーリーガヤ ジンヨウキスミレ モイワラン サクラソウモドキ ホテイアツモリ	
	絶滅危惧IB類 ハネピロエゾトンボ セシジアカガネオサムシ ババアメンボ キンイロネクイハムシ コオイムシ マガリスジコヤガ ゲンゴロウ クシロモクメヨトウ ウスバシロチョウ ゴマシジミ東北・北海道亜種 ヒョウモンチョウ北日本亜種 シロオビヒメヒカゲ札幌周辺亜種	ヒメハナワラビ ヒロハガマズミ チャセンシダ エゾタンポポ ミヤマイワテンダ コウライワニグチソウ オオエゾテンダ ヤマオオウシノケガサ ベニバナヤマシャクヤク タカネグンバイ エゾサンザシ カイジンドウ	
低	絶滅危惧II類 エゾアオイトトンボ コシボソヤンマ コエゾトンボ マダラコガシラミズムシ マルガタゲンゴロウ セアカオサムシ	クロルリハナカミキリ ギンイチモンジセセリ カバイロシジミ ヒメスズメ 他7種	エゾノヒモカズラ エゾナミキソウ ヤナギヌカボ ミヤマママコナ タチハコベ エゾヒョウタンボク クロバナハンショウヅル キンセイラン ホロムイイチゴ 他38種 エゾコザクラ

こんな生き物も そのうち絶滅しそうになるかもしれません。

● 準絶滅危惧

今は絶滅の危険は小さいけれど、環境の変化によっては「絶滅危惧」になってしまうかもしれない生き物。

ほ乳類	鳥類	両生類・は虫類	淡水魚類・水生動物
ヒゲマ	エゾライチョウ マガン オシドリ ヨタカ オオジシギ ミサゴ ハチクマ ハイトカ オオタカ アカショウビン マキノセンニュー	エゾサンショウウオ	ヤチウグイ エゾホトケドジョウ イシカリワカサギ エゾトミヨ

昆虫類	植物		
オオアオイトトンボ セスジイトトンボ ホンサナエ カラカネトンボ カオジロトンボ トドマツアワフキ オオコオイムシ ブライヤーヒロバカゲロウ ケンゲンゴロウ コルリマルクビゴミムシ エゾコガムシ キノコアカマルエンマムシ エカシマルトゲムシ シロウズベニコメツキ ソソホタルモドキ ジャコウカミキリ シロヒゲナガゾウムシ トワダオオカ	ジョウザンナガハナアブ キイロトゲハナバエ ハナバチノスヤドリニクバエ ツマキチョウ アカマダラ オナガミズアオ北海道亜種 ミヤマキシタバ カメノコヒメトビケラ ヒメアミメトビケラ ウスキモモトハバチ キンケセダカヤセバチ オオツヤセイボウ 他34種	ヒロハハナヤスリ ヒメハイホラゴケ エゾミヤマヤナギ エゾノミズタデ ナガバノウナギツカミ イトキンボウゲ マツモ ヤマシャクヤク マルミノウルシ オオバタチツボスミレ ゴキヅル オオウメガサソウ ホロムイリンドウ エゾハナシノブ キヨスミウツボ タヌキモ イワヨモギ アギナシ	ソソバヒルムシロ クロユリ ミズアオイ ミクリゼキショウ ヒメウキガヤ ウキガヤ タマミクリ ヒメガマ ソソバオゼヌマスゲ アシボソスゲ コイチヨウラン オオフガクズムシソウ 他11種

生き物を 絶滅から守るために、 何ができるのでしょうか？ 一人ひとりが できることから始める ことが大切です。

まずは生き物たちのこと、自然のことを

「知る」ことが大切です。

そして、自分にできることを

探してみてください。

イタチ科
クロテン
(札幌：絶滅危惧ⅠA類)

本州から持ち込まれた
外来種ニホンテンの影響が心配されています。



ヒナコウモリ科
ヤマコウモリ
(札幌：絶滅危惧Ⅱ類)

食虫性のコウモリでは日本最大。
ねぐらにする大木が
減っています。



知ること。

- 近所の公園や緑地を歩いてみよう。
身近な自然や季節の変化を感じることができます。
- 身近な生き物を探してみよう。
家や学校の周りにも、たくさんの生き物がいます。
- 森や山、川に行ってみよう。
札幌の自然の豊かさを感じることができます。
- 自然の中で遊んでみよう。
自然と触れ合うことでわかることがたくさんあります。
- 動物園や植物園、博物館に行ってみよう。
生き物や自然のことをたくさん学ぶことができます。

キツツキ科
クマゲラ
(札幌：絶滅危惧Ⅱ類)
日本最大のキツツキ。
巣作りに必要な大木のある
天然林が減っています。



できることから始めよう。

- 野外で出したゴミは、かならず持ち帰ろう。
見つけたゴミも一緒に持ち帰ろう。
- 野生の動物や植物は、むやみにとらないようにしよう。
- 野生の動物には、むやみに近づいたり、
エサをあげたりしないようにしよう。
- ペットは最後まで責任をもって飼い、
絶対に野外に放さないようにしよう。
- 自然や生き物を守るために取り組んでいる
団体や企業を応援しよう。
- イベントや活動に参加してみよう。
- 環境にやさしい商品を選ぼう。
- 水を大切にしよう。
- 省エネルギーや省資源を心がけよう。
- どんなことができるか、家族や友だちと話し合ってみよう。



ザリガニ科
ニホンザリガニ
(札幌：絶滅危惧Ⅱ類)
宅地の開発や水質汚染により、
生息地が減っています。

きれいな空気や水、おいしい食べ物…
生き物たちのつながりが与えてくれる
自然のめぐみに感謝して、
できることから始めよう。

ひとりでできるのは
小さなことかもしれないけれど、
みんなで取り組めば
大きな力になるはず。

これ以上、
レッドリストにのる生き物を
増やさないように、
わたしたち一人ひとりが
今、できることから始めよう。



サクラソウ科
サクラソウモドキ
(札幌：絶滅危惧ⅠA類)
北海道のみで見られる多年草。
生育地が限られています。